

図書館だより

図書館日誌

(2015 年 3 月より 9 月まで)

2015 年

- 3.6 図書館 Web サイトのスマートフォン対応開始
- 3.25 卒業式につき図書館を開放 (3/26 まで)
- 4.1 入学式につき図書館を開放 (4/2 まで)
- 4.13 Library Week を開催 (4/17 まで)
- 6.26 図書館協議委員会 (第 1 回)
- 6.26 電子媒体検討委員会 (第 1 回)
- 7.21 夏季長期貸出 (8/31 まで)
- 7.28 西早稲田中学校職業体験 (7/30 まで)
- 7.29 電子媒体検討委員会 (第 2 回)
- 8.1 夏季休業期間につき開館時間短縮 (9/20 まで)
- 8.1 オープンキャンパスにつき図書館を開放 (8/2 まで)
- 9.7 慶應義塾大学実習生研修 (2 名、9/18 まで)

〔表紙写真〕

ダイヤモンド・クラシックス 全 25 タイトル 39 冊 (ロンドン: W. ピッカリング 1820-31 年刊行 48 折判) 請求記号: F908-00110

19 世紀ロンドンの出版業者ウィリアム・ピッカリング (Pickering, William, 1796-1854) が、1820 年の創業より 10 年にわたって刊行したミニチュア古典名作・英国著作シリーズ。版元クロス製本の最初期のもので、数冊の紙、絹、革装丁本を含み、当時の装丁のサンプルとしても貴重である。1828 年以降、ピッカリングは、16 世紀ヴェネツィアの大印刷業者アルド・マヌーツィオの商標「錨とイルカ」に「アルドの英国の弟子」という銘を付けて自身の商標に採用した。図書館企画展「アルドの遺産子」(10/5 ~ 11/19) にて展示中 (本誌 p 3 参照)。

～ Pulsus ～

学部学生時代はもはや 30 年以上も前、オーストラリアの大学で過ごした。

当時、授業の形式は二つだけで、レクチャー (講義) とチュートリアルだった。後者は小人数で先生と何らかのテキスト (詩や小説、資料や学術論文) についてディスカッションするのが目的だった。

ゼミという学生が中心に発表する形式の授業はなく、学部時代エッセイ (レポート) はたくさん書いたが、発表をしたことは一度もない。グループで課題を調べた記憶もない。

だから早稲田で教えるようになって最も感心したのは、学部学生が人前で発表することの上手さ。

英語でも、自信があまりなくても、ちゃんとできる。クラスをグループに分けられ課題を与えられるのにも慣れているらしい。

この頃大学構内のあらゆる場所で、学生がグループで一生懸命ディスカッションをし、発表を準備しているのが目につく。

図書館として、グループ学習室やラーニングコモンズという空間を増やし皆様の学習を支援していきたい。

ゲイ ローリー: 法学学術院 教授
(図書館副館長)

大学の心臓、図書館。

Pulsus はその鼓動 (Pulsus) をお伝えします。

早稲田大学図書館報

ふみくら No.88

2015 年 10 月 26 日発行 2,500 部

発行人 人/深澤良彰

編集 集/荘司雅之・井上さやか・阪下清香・ティムソン ジョウナス・藤原一智

発行 行/早稲田大学図書館 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 電話 03-5286-1652

ISSN 0289-8926